

## 2023年度 第二回 日産愛知自動車大学校 教育課程編成委員会 会議報告書

1. 開催日時 2024年2月29日(木) 13:30-16:00

2. 開催場所 日産愛知自動車大学校 多目的ルーム

## 3. 出席者

(学校外委員)	団体代表	正治 博史 様	愛知県自動車車体整備協同組合 専務理事
	団体代表	西 和幸 様	愛知県自動車整備振興会 教育部 次長
	企業代表	大森 一也 様	日産自動車株式会社 グローバルアフターセールスエンジニアリング部
	企業代表	小出 学 様	日産東海テクノ株式会社 工場長
	企業代表	山口 純丙 様	日産プリンス名古屋販売株式会社 課長代理
	企業代表	内山 晃 様	愛知日産自動車株式会社 課長
	企業代表	稲垣 俊夫 様	日産サービスセンター株式会社 課長
(学校内委員)	学校長	松川 健一	校長
	部長代理	鈴木 貴久	教育部
	課長代理	中務 健之	教育部 一級科
	課長代理	坂口 正憲	全科1, 2年生
	統括	上谷 晃一	工学科、CM科
	統括	今野 雄一	学務部

## 4. 議題

・ご挨拶

1. 前回のご意見の受け止め
2. 日産資格試験結果報告
3. 国家試験学習進捗状況
4. 自主性・主体性の取り組み
5. ICT教育の取り組み
6. Dr.Kプロジェクトについて
7. 25/4就職希望状況と24/4入学者数
8. 1級3、4年生の卒業研究について(エネワン)口
9. カーボディ・マスタ科の取り組み
10. 東京オートサロン出展車両の見学口
11. 教育課程へのご意見

## 5. 議論

1)意見交換と質疑応答

いただいた貴重な意見・指摘については、今後の授業に反映していく。

種別	項目	所属	質問者	主な意見
1	前回のご意見の受け止め	説明内容		<p>&lt;愛知日産 内山様よりご意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>整備工場の現場からも整備記録簿が書けないという声を聞く。貨物と併せて、事業用の整備記録簿の記入についても教えてほしい。</li> <li>学校では整備振興会の記録簿を使用しているが、実際の12ヶ月点検は車載されているメンテナンスシートを使用している。留学生にとっては全く別物と感じている様子がある。</li> <li>マスターメカニック科もカーボディマスター科もリマインドを兼ねて、就職前に点検の実習を入れていただきたい。</li> </ul> <p>&lt;弊社回答&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一級工学科では、整備振興会の記録簿、車載の点検記録簿、貨物用、事業用すべての記入を学習している。</li> <li>3年生マスターメカニック科、カーボディマスター科については、卒業前に点検の実習を取り入れ、リマインドを図る。</li> <li>整備科については、車載の点検記録簿、貨物用、事業用の違いを説明する時間を設ける。</li> <li>(次年度は、1年生から内容を分け、展開していきたい)</li> </ul>
		愛知日産	内山 様	<ul style="list-style-type: none"> <li>リマインド点検実習実施について、学生さんの声などを伺いたい。</li> <li>→学生から「やっておいて良かった」「入社に向けて不安だった」の声があった。</li> <li>また、教員から実習作業を見ていて、作業があやふやなところがあり、実施して良かったと感じた。</li> </ul>
2	日産資格試験結果報告	説明内容		<ul style="list-style-type: none"> <li>2年生「TS3級」、CM科「車体士3級」「塗装士3級」、1級3年「TA3級」、1級「TS2級」すべて全員合格となった。</li> <li>TS3級の難易度が若干高かった。</li> </ul>
3	国家試験学習進捗状況	説明内容		<p>&lt;日産校 統一模擬試験結果から見る学習進捗状況&gt;</p> <p>◆二級整備士</p> <p>「過去期生との比較」 : 留学生数が多かった昨年度より上昇し、日産5校平均レベルになった。</p> <p>「1月からの模擬試験推移」 : 昨年度よりガソリン、ジーゼルともに10点程度高い得点で推移。</p> <p>「点数分布」 : 昨年度より成績上位者が多いが一級学生が占めているわけではない。留学生の低位層はきわめて厳しい状況。</p> <p>「学習体制」 : ランク(成績)別で学習を実施しランクに応じて学習時間を設定。</p> <p>「今後の対策」 : 低位者の絞り込みを適宜実施し休日登校学習を予定。少人数個別指導体制を敷き、低位留学生は別対応。</p> <p>◆一級整備士</p> <p>「10月からの模擬試験推移」 : 2月の8回目模試で昨年度より大きく点数が下がった。</p> <p>過去問題は答えられるが、専門学校協会の全国統一模試や日産校オリジナル作成問題に対応できないため、内容理解の指導を継続する。</p> <p>「点数分布」 : 1月までは上位者、下位者の2分化が顕著であったが、下位者の底上げが少し図れた。</p> <p>3/1の卒業試験で全員合格を目指す。</p> <p>「学習体制」 : 基本は授業時間帯で実施し、低位は更に19:00まで。問題の文章直しを全て実施し、教員が確認を行う。</p> <p>「今後の対策」 : 不合格者(低位者)のみが間違える問題を個別で指導。実施数を増やし、読解力スピードの向上を図る。</p> <p>上位者には新問題の対応。低位者3名には個別対応を行う。</p> <p>◆車体整備士</p> <p>「昨年度との比較」 : 第1回では5点DOWNしていたが、第2回では昨年と同等となり、最低点も10点UPとなった。</p> <p>低位者は良くなったものの、平均点との乖離があるため個別指導にて対応する。</p>

4	自主性・主体性の 取り組み	説明内容		<p>&lt;ルーブリック評価表による行動評価&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・整備科1,2年生に対して行動評価のトライアルを開始。</li> <li>・対人基礎力の「親和力・協働力・統率力」の3項目に絞り込み、評価ランクについては、5段階に設定。</li> <li>・今後は項目数の検討と年2回の面談を実施し、学生個々の成長に繋げていく。</li> <li>・教員用には、指導へのアドバイスと評価時のポイントやキーワードを用意した。</li> </ul> <p>&lt;学園祭&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度同様、学生実行委員主体で開催。教員会議にて実施許可のプレゼン～中間報告～終了後の報告まで行った。</li> <li>・実行委員も複数の学年にまたがり、後輩への引継ぎも行い、次年度も期待される。</li> </ul>
5	ICT教育の取り組み	説明内容		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生に個人配付していますクロームブック(ノートPC)の、授業等における活用事例を紹介。</li> </ul> <p>①クラスルーム機能によるレポート課題提出、及び採点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワープロ文書レポートの採点作業を、画面上に埋め込まれた評価項目を見ながら点数入力及び合計点算出をできるようにした。これにより教員の時間効率化が図れるようになった。</li> </ul> <p>②ジャムボード機能 電気回路図の画面共有</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員PC画面で記入していく様子が画面共有できる機能を使い、電気回路に電気の流れをなぞっていく様子が、学生は手元のPC画面で見ながら授業を受けられる。</li> <li>・教員側PCでは閲覧者が確認でき、見ていない学生の把握ができる。</li> <li>・学生を編集者にする事で、学生に記入させることもできる。</li> </ul> <p>③グーグルキープ機能 作業進捗共有</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・付箋メモを共有できる機能であり、エンジン分解組立実習の進行管理に使用している。</li> <li>・班ごとに「作業計画」「不具合記録」「毎日の振り返り」などを写真とともに記録することで、分解組立の円滑な作業進行が行える。</li> <li>・班員共有はもとより、教員から閲覧することで、各班の状況を把握できる。</li> </ul>
		プリンス 名古屋	山口 様	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PC操作については会社としても必要な能力で、システムは違えど助かる。</li> <li>・会社ではiPadがテクニカルスタッフに一人1台となる予定。そういった物にも慣れていただけると助かる。</li> </ul>
		整備振興会	西 様	<ul style="list-style-type: none"> <li>・懸念としてコピーペーストでレポート作成する学生がいるとのことだが、機能制限を設定することができるのではないかと、一学内で確認する。</li> </ul>
		日産自動車	大森 様	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTを進めることは学生、社会人に関わらず、大変有効である。</li> <li>・現在日産ビジネスカレッジもテキストなど紙媒体が多い状況ですが、今後は電子化を推進していく。</li> <li>・テキストなどの電子化により更新が簡単になり、新技術の織り込みもスムーズになる。</li> <li>・アンケート(Forms)などの集計作業も電子化により簡便になった。</li> </ul>
6	Dr.Kプロジェクトについて	説明内容		<ul style="list-style-type: none"> <li>・近年の整備士不足問題に関し業界イメージ向上の企画として、著名な方々からアドバイスをいただき、約1年かけて行政、現地、専門家様との調整検討を進めてきたもの。</li> <li>・八丈島を活動の場とした理由は、車が生活に欠かせない中、車にとって過酷な土地であるにもかかわらずあまり点検が行われていない状況があり、日常点検を無料で行うことで、整備の必要性をアピールできると判断。</li> <li>・日産校3校の学生18名と教職員、アドバイザー、現地議員、メディアの方々と体制を組み、役場の広場を会場として2月18日(日)に開催した。</li> <li>・事前告知を行い、予約20台のところ、当日は48台と大盛況となった。</li> <li>・受付からお見送りまでの流れは、前日に学生たちがリハーサルもしながら現地で考えて準備した。</li> <li>・日常点検では整備作業は行わず点検結果を説明するまでにとどめ、不具合に関しては現地整備業者を紹介する形を取った。</li> <li>・お客様のアンケートでは、回答いただいた方全員が満足する内容であった。</li> <li>・学生にとっても、生きた車を見れたことや、お客様の笑顔が見れたことで満足する内容となった。</li> </ul>
		車体整備 協同組合	正治 様	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来年度も八丈島の実施で考えているのか。</li> <li>→他の場所だと現地調整からとなり時間を要するため、八丈島で考えている。</li> <li>・現地業者の状況は。</li> <li>→ガソリンスタンドと併設のところが多く、日ごろはタイヤ交換だけなど限定的な整備となっており、また使用者へ勧めるが入庫は難しい。</li> <li>→現地業者のご協力により、錆びた車のジャッキアップに関してなど現地ならではのアドバイスもいただいた。</li> </ul>
		日産サービ スセンター	稲垣 様	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この取り組みは自主性を高めることに繋がっていると思う。</li> <li>・自主性に関して弊社の卒業生(1期)から、資格を取ることも大切だが、最近の卒業生はあいさつが出来ないと話があった。</li> <li>→現在あいさつ訓練などの実施は行っていない。コロナ禍の事もあり大きな声出しも行っていない。</li> </ul>
		東海テクノ	小出 様	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加した学生さんは希望者か。</li> <li>→各校ごとに人数枠があり、手を挙げた中から選考した学生。</li> <li>・できるだけ多くの学生さんに経験させたい内容だと考える。最近では仕事も先輩の言いなりで自分からの発信できない方が増えた。そこを改善できるプロジェクトと思う。島にいかなくても、実習車でない実際に使用されている車を触る何らかの機会を作られると良いと考える。</li> </ul>
7	25/4就職希望状況と 24/4入学者数	説明内容		<p>&lt;25/4就職希望状況を説明&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日産販売会社系・・・この割合が昨年度より増加。(就職希望状況だが、販売会社は採用試験が終わり、ほぼ確定数となる)</li> <li>・日産関連企業・・・日産自動車、日産関連部品メーカー、日産サービスセンターへの希望がある。</li> <li>・他メーカー・・・トヨタ、ホンダ、三菱など。</li> </ul> <p>&lt;24/4入学者数 2/13時点見込みを説明&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度より日本人数が少し減り、留学生数がコロナ禍までに回復した。</li> <li>・日本人出身地は愛知、岐阜、静岡、三重が大半を占め、長野、石川からの入学があった。</li> <li>・課程別で見ると一級が減少、整備科が留学生増により大幅増加。その他各科は若干の増加。</li> </ul>
		プリンス 名古屋	山口 様	<ul style="list-style-type: none"> <li>・留学生が多いが、入学試験にて合格を絞っているのか。今年入社の留学生が多く、配属先店舗より日本語力の低下を指摘されている。</li> <li>・留学生が多いと自国語で喋ってしまい、在学時の日本語力向上が図れない懸念があるのではないかと。</li> <li>・社内で日本語検定試験問題を実施したところ、向上している者もいれば、N2取得者で下がっている者もいる。</li> <li>・日本語を喋る機会、読む機会を増やしてほしい。</li> <li>→入学試験にて選考し、喋れない留学生は不合格としている。</li> <li>→また、喋れるが漢字の読み書きが苦手な留学生は多い。</li> <li>・店舗配属先で日本人とコミュニケーションが取れるところは向上している。</li> </ul>
		整備振興会	西 様	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学条件でN3以上など条件はあるか。</li> <li>→N3相当としている。その判断するため選考試験を入試で実施し、また対話にて判断している。</li> <li>→資格を条件とすると入学者を担保できない。今後留学生も減少すると考えている。</li> <li>・振興会講習でも海外の方がくるが、日本語力の低下を感じている。学校での日本語指導はどのように行っているか。</li> <li>→学内では日本語のみと指導しているが、目の届かない場面までは指導しきれない現実がある。</li> <li>・その他企業への就職先はどのような企業か。</li> <li>→家業に入る方や、建設機械関係、フォークリフト、部品メーカーなど。</li> </ul>

8	1級3, 4年生の卒業研究について(エネワン)	説明内容		<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業研究授業は例年4年次10月の3週間で行っているが、期間が短いため完結しないことが多かったため、3年次からのロングスパン(約1年)で週に数時間ずつ行っていくこととする。</li> <li>その中のテーマの一つに「Ene-1への挑戦」を設定する。</li> <li>「Ene-1」とは単三充電電池40本を使い鈴鹿フルコースのタイムアタック3回で競う。</li> <li>電池の接続やモーターに規定はなく、レギュレーションが厳しくないため学生のアイデアで運営する。</li> <li>高校からの参加も全体の約半数と多く、入学につながる可能性があるとも考えている。</li> </ul>
9	カーボディ・マスタ科の取り組み	説明内容		<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業前に定期点検作業の講座を実施。貨物、事業用、車載メンテナンスノートの記録簿記載も併せて行った。</li> <li>先進安全装置について日産テキストを基に授業を行った。</li> <li>教員が受講した日産研修センターの「上級フレーム修正講座」と愛知県自動車車体整備協同組合の「車両計測講座」を授業に落とし込み教育内容の充実を図る。</li> <li>進級前の学生に日産販売会社への優位性説明、BP工場の紹介を行い、日産販売会社及び日産BP工場へ希望する学生が増加する結果となった。</li> </ul>
		日産自動車	大森 様	「車体上級講座」で行うセンタリングゲージは古くからある機器ではあるが、知識として知っておかなければならない機器と考えている。
		東海テクノ	小出 様	BP工場希望者が増えたのは嬉しい。きつい仕事で悪いイメージがあるが、達成感を感じる授業を行っていただき、入社につながればと考える。
		車体整備協同組合	正治 様	愛知県自動車車体整備協同組合が行うこの講座は平成27年から毎年内容を変えて実施している。今年も特定整備へ改正された内容としてアライメントの重要性と小さな工場でも行える方法として実施。来年度はEV内容の予定。
10	東京オートサロン 出展車両の見学	説明内容		<ul style="list-style-type: none"> <li>出展車両を制作するに、ターゲット(乗る人)を想像してコンセプト考案からスタート。</li> <li>全て学生が考え、市場調査も行い、教員向けにコンセプト発表プレゼンを行った。</li> <li>2.5か月という短期間であるが細かな所までこだわりを持って丁寧に仕上げ、スポンサー様の協力も得ながら完成度の高い仕上がりとなった。</li> <li>オートサロン当日はたくさんのメディアに取り上げられ、説明する学生達も自信につながったと感じている。</li> </ul>
11	教育課程へのご意見	日産自動車	大森 様	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在、整備士が減少しお客様に整備を提供できなくなるという課題に直面しています。全社レベルで整備性のプライオリティを上げるため「日産車の整備性改善活動」をキックオフしました。</li> <li>改善する事で整備士にとって働きやすい環境を醸成することでお客様に安心/安全に乗っていただけるように改善活動を推進していきます。</li> </ul>